

## 【加美町】 校務 DX 計画

令和 2 年度以降の ICT 環境整備として、1 人 1 台端末導入、授業支援ソフトウェア等の導入により、教育現場のデジタル化を進めてきた。

教員間においては、校務支援システムを導入し、伝達事項や各種資料を共有している。今後、校務 DX を推進するために「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定する。

### 1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の 2 つに分離しており、教職員一人ひとりに校務用と学習用それぞれ端末を用意し、校務用端末は持ち出しを禁止している。今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1 台の教職員用端末で 2 つのネットワーク（校務系及び学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系ネットワークの統合について検討を進める。

また、現行の運用において、学習系で生成されたデータと校務支援システムに蓄積された校務系データの連携が困難であること、自宅や出張先で校務処理ができないことなどの課題がある。

これらの課題についても、教職員の働き方改革を推進するために、環境整備を検討していく。

### 2. 汎用クラウドツールの一層の活用

#### （1）GIGA 環境・汎用クラウドツールの一層の活用

クラウド型の校務支援システムの導入により、全ての教職員が情報共有や連絡等に活用できる環境にある。また、教職員間や教職員と児童生徒のデータ共有等についても、町内全ての学校でクラウドサービスを活用している。一方、「保護者への調査・アンケート」や「保護者からの問合せや連絡」については、活用が進んでいないため、先進地域の事例の紹介や研修会の実施により、各学校におけるクラウドサービスの対象が保護者等にも広がるよう支援・整備を行っていく。

## （２）FAX・押印等の制度・慣行の見直し

全ての学校でFAXを活用している。また、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があるため、FAXや押印等について見直しを行うとともに、FAXでの送付や押印を求めている関係団体・事業者等にも見直しについて協力を求める。

## （３）校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

本町で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可能であるが、原則としてはCSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録することとしている。個人情報ファイルの取扱いに十分留意し、今後も継続して行っていく。

## （４）教育情報セキュリティポリシーの策定

現在、自治体の情報セキュリティポリシーを準用しているが、クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定し、国の方向性や現状を的確に把握しながら、よりよい活用ができるよう随時改正を行っていく。

これまで各種デジタル化・オンライン化を進めてきたが、学校現場は依然として紙ベースの資料やアナログ対応の部分が多いため、業務の円滑化・効率化の観点から、次期校務システムでは、情報の共有・集計・報告業務等の学校支援の迅速化が図れる機能を盛り込み、教職員の働き方改革へ繋がるよう積極的に進めていく必要がある。